

世界クラスの資源群を誇る“ふじのくに”静岡県

富士山、葦山反射炉、南アルプスなど、静岡県は世界に誇る資源に恵まれ、国際舞台で活躍する団体や人材も数多く存在する。

静岡県は、こうした世界水準の魅力を活かし、国内外の憧れを呼ぶ地域づくりを進めている。



世界クラスの資源群が顕在化

平成25年に「富士山」が世界文化遺産となったのを皮切りに、世界農業遺産「静岡の茶草場農法」、ユネスコエコパーク「南アルプス」、世界文化遺産「葦山反射炉」など、世界クラスの地域資源が、国際的評価を得る形で次々と顕在化している。

世界文化遺産 富士山

（平成25年登録）

「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」としてユネスコの世界文化遺産に登録された富士山は、多くの人々が山頂を目指して登る「信仰の対象」としての山岳の性質を持つとともに、様々な文学、芸術作品の対象として描かれ、西洋美術界に大きな影響をもたらした「芸

術の源泉」としての性質を持つ。日本の国土の統合のシンボルであり、世界の宝である。

世界文化遺産 葦山反射炉

（平成27年登録）

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録された葦山反射炉は、実際に稼働した資産の中で唯一現存する反射炉。日本の製鉄技術の黎明期を物語る遺産であるとともに、ものづくり静岡の源流を見ることができきる資産だ。

無形文化遺産 和食

（平成25年登録）

「和食 日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産への登

録には、和食を「自然を尊重する日本人の精神を体現した社会的慣習」と位置づけた熊倉功夫・静岡文化芸術大学学長の御尽力があった。和食文化は、茶の湯の懐石料理が発展したものとされており、「茶の都 静岡」にもゆかりが深い。

世界農業遺産 静岡の茶草場農法

（平成25年認定）

茶草場農法は高品質な茶の生産のため、茶園の畝間にススキやササなどを敷き詰める伝統的な農法だ。茶園周辺の茶草場（半自然草地）には、地域によっては絶滅が危惧される「秋の七草」など、300種類以上の植物が自生している。この伝統的な農法が、静岡の原風景ともいえる、里山の草地の環境を守り続けてきた。

ユネスコエコパーク 南アルプス

（平成26年登録）

自然と人間社会の共生を目的とするユネスコエコパークに登録された南アルプスは、3000m級の急峻な山々が連なる日本屈指の山岳地帯だ。その深遠な渓谷は豊かな森林を育み、多種多様な動植物が生息する環境を醸成している。また、富士川や大井川などに水の恵みを与え、人々の営みに豊かさや潤いをもたらすとともに、その流域ごとに固有の文化や伝統を育み、現代に承継してきた。

ノーベル物理学賞 天野浩教授

（平成26年受賞）

青色発光ダイオード（LED）の開発でノーベル物理学賞を受賞した天野浩名古屋大学大学院教授は、静岡県出身だ。浜松を擁する静岡県は何事にも果敢に挑戦する「やらまいか精神」が根付き、ものづくり静岡を支えてきた地域。受賞のニュースはあらゆる分野で地道な努力を重ねる人々を照らす希望の光となった。平成27年1月、その功績を称え、静岡県は天野教授に県民栄誉賞を授与した。

天野浩名古屋大学大学院教授は静岡県浜松市出身だ。浜松を擁する県西部は何事にも果敢に挑戦する「やらまいか精神」が根付き、ものづくり静岡を支えてきた地域。受賞のニュースはあらゆる分野で地道な努力を重ねる人々を照らす希望の光となった。平成27年1月、その功績を称え、静岡県は天野教授に県民栄誉賞を授与した。

IEEEマイルストーン 浜松ホトニクス株式会社

（平成26年認定）

浜松ホトニクス株式会社は、ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊・東京大学特別栄誉教授がニュートリノ観測に用いた観測装置「カミオカンデ」に使われた20インチ光電子増倍管を開発した浜松市の企業だ。極微

弱な光を検出するそのセンサーは米電気電子学会（IEEE）から電気・電子技術の偉業を顕彰する「IEEEマイルストーン」に認定された。また、同タイプの光電子増倍管は、梶田隆章東京大学宇宙線研究所長がニュートリノに質量があることを発見したスーパーカミオカンデにも使われ、同氏のノーベル物理学賞受賞に寄与した。

アヴィニオン演劇祭招請 SPAC （静岡県舞台芸術センター）

（平成26年公演）

南仏アヴィニオンで開催される世界最高峰の演劇祭「アヴィニオン演劇祭」の公式プログラムに、SPAC（静岡県舞台芸術センター）が招聘され、「マハーバータラナラ王の冒険」・「室内」の2作品を上演

世界水準の魅力を活かした地域づくり

ほかに、花のまちづくり国際コンクールで最高評価の「5つ花」賞を受賞した「牧之原市花の会」、第17回世界バラ会議で「優秀庭園賞」を受賞した熱海市の「アカオハープ&ローズガーデン」、東洋のノーベル賞を目指す台湾の「唐奨」を受賞した本庶佑・静岡県立大学法人理事長、森林・木材科学分野のノーベル賞と言われるマルクス・ヴァーレンペリ賞を受賞した磯貝明・東京大学大学院教授（静岡市出身）、天文学、生物科学

等の研究成果を讃える「クラフオード賞」を遺伝子の先駆的研究で受賞した太田朋子・国立遺伝学研究所（三島市）名誉教授、全国の科学技術の進歩に貢献した人を称える「日本国際賞」を受賞した高橋裕・東京大学名誉教授（静岡市出身）、卓球ワールドツアー女子シングルスで最年少優勝を果たした伊藤美誠選手（磐田市出身）など、国際舞台で活躍する県内関係者・関係団体が数多く輩出されている。また、袋井市のエコパスタジアムや伊豆市のペロドームが国際大会の競技会場として使用されることが決まっている。

静岡県は、こうした世界水準の魅力を磨き高めながら、国内外の憧れを呼ぶ地域づくりを進め、「富国徳の理想郷ふじのくに」を目指していく。



ノーベル物理学賞を受賞した天野浩氏（写真：県民栄誉賞贈呈式にて）



IEEEマイルストーンに認定された光電子増倍管



SPAC（写真：アヴィニオン演劇祭にて） © 新良大



日本初の木製走道の室内自転車競技場「ペロドーム」